



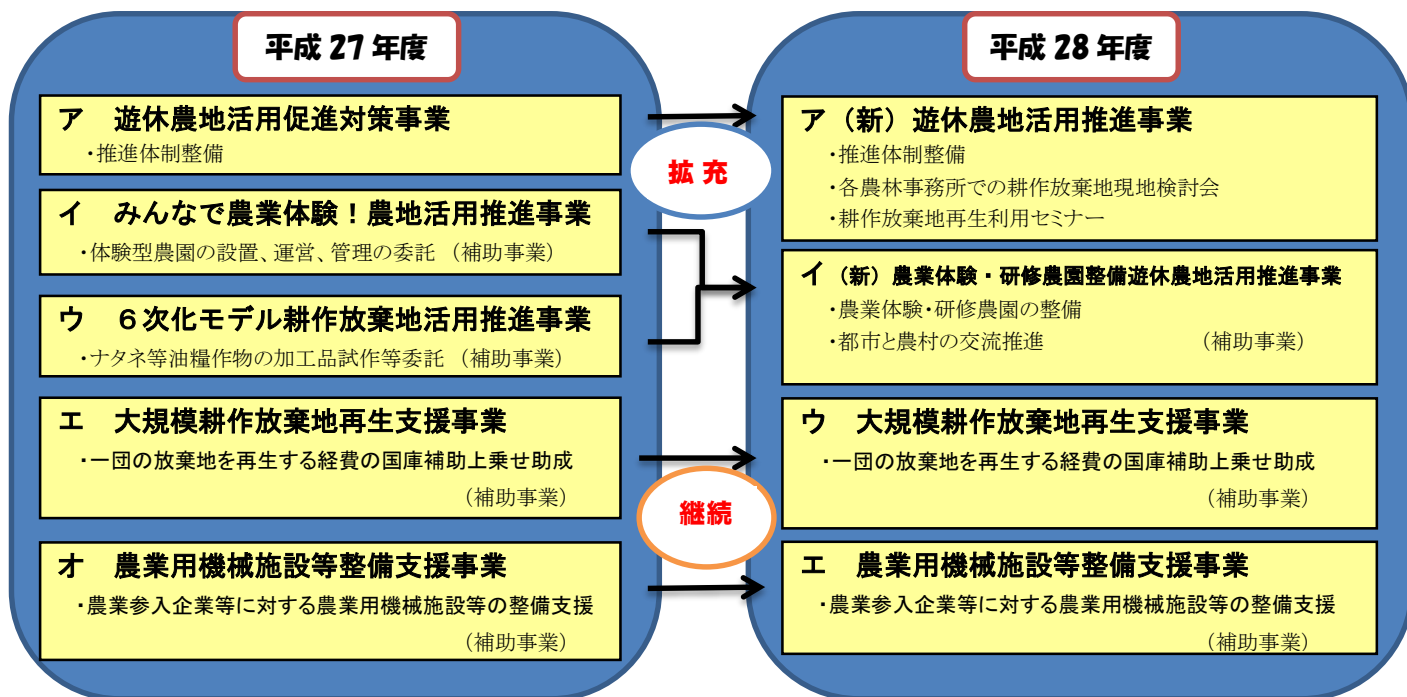
# 農地再生レポート通信



発行：福島県耕作放棄地対策協議会 編集：福島県農村振興課 TEL 024-521-7415 FAX 024-521-7545 E-mail:nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp



平成28年度における耕作放棄地対策事業につきましては、国庫事業を活用しながら、県事業についても地域の実態に応じた取組に対する支援を強化しました。



## むらからまちから

## 西郷村農業再生協議会

の取組を紹介します。

### ① 協議会の設立経緯

平成24年2月、西郷村水田農業推進協議会、西郷村担い手育成総合支援協議会、西郷村耕作放棄地対策協議会を整理統合し、「西郷村農業再生協議会」を設立しました。それ以来、当協議会で耕作放棄地再生利用に向けた活動を行っています。

### ② これまでの取組状況

国の再生利用緊急対策交付金事業により、平成26年度は耕作放棄地170aの再生作業を行い、併せて県の農業用機械施設等整備支援事業を活用し、村内の粗飼料の受託生産組織がトラクター等の機械を整備しました。平成27年度は営農定着及び土壌改良に加え、新たに耕作放棄地30aの再生に取り組んでいます。

### ③ 特徴的な取組

当村は、県内でも酪農が盛んな地域であり、耕種農家が水田を中心にWCS用稲やデントコーンを栽培し、酪農家からは堆肥を供給する耕畜連携の取組を推進しています。

特に耕作放棄地は、ほ場条件が悪いところが多く、再生後はあまり条件を気にせずに栽培できるデントコーンなどの飼料作物を中心に作付けを行っています。

### ④ 今後の抱負・活動展開予定

デントコーンなどは、手間暇があまりかからずに栽培でき、耕作放棄地解消による規模拡大を図るうえで最適な作物だと考えています。さらなる耕畜連携の推進を図りながら、取組主体（経営体）を育成し、当該取組みを積極的に進めていきたいと思っております。



再生前



再生後

飯館村の  
嶋原圭子さん

にインタビューしました!!



飯館村の嶋原圭子さん



ハウスで栽培した小松菜



A

今後の耕作放棄地活用の展開について  
お聞かせください。

今後は、パイプハウスを活用し、早出しのトウモロコシや冬期間にはアスターやストックなどの花卉類にも挑戦したいと思っています。  
新たな土地での農業は、試行錯誤の連続ですが、自分たちの農産物をこの地の特産にしようと毎日奮闘しています。



A

耕作放棄地解消の取組について  
お聞かせください。

耕作放棄地の再生には国の事業である「被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業」を活用し、平成二十六年年度から今年度にかけてハ〇アールもの荒廃農地を解消しました。  
また、再生農地にはパイプハウスを4棟整備し、小松菜とアスパラガスを栽培しています。特にアスパラガスについては、露地栽培を組み合わせた長期出荷を計画しており、現在約一万株を育苗しているところです。



A

耕作放棄地再生に取り組んだ  
きっかけについてお聞かせください。

震災前は、飯館村でアスパラガスの栽培を行っていましたが、東日本大震災による原子力災害で、避難を余儀なくされました。  
避難した当初は、慣れない土地での生活に苦勞も多く、なかなか農業を再開しようとする気持ちが出てませんでした。  
しかし、震災から一年経過した頃、農家の仲間たちが避難先で営農再開を果たし、生き生きと農作業をしている姿を目にしているうちに、自分たちも農業を再開したい、特に、本格的な収穫を心待ちにしていたにも関わらず、断念せざるを得なかったアスパラガスにもう一度チャレンジしたいと思うようになりました。



## 羅針盤

～福島県・県協議会からのお知らせ欄～



お知らせ

- ◎ 国の被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業については、これまで震災関連事業として復興庁所管で予算化されておりましたが、平成 28 年度からは、一般会計（農林水産省所管）予算での対応となりました。本県では、基金として保有している再生利用緊急対策交付金を充当し、被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業を実施していくことになります。本事業は平成 30 年度まで実施できますので、引き続き事業の活用をお願いします。
- ◎ 県では、農業法人の規模拡大や農業への企業参入を促進することにより、耕作放棄地の解消を集約的に進めるため、国庫事業への上乗せ支援や農業用機械等の整備を支援する事業として耕作放棄地活用条件整備復興促進事業を来年度も実施します。事業に興味のある方は、最寄りの県農林事務所農業振興普及部又は県農村振興課まで。



## 編集後記

早いもので平成 27 年度も終わりを迎えようとしています。本年度もいろいろお世話になりました。記事の提供に御協力いただいた方を始め、編集にお手伝いいただいた方々に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。これからも、いろいろな情報をお届けできればと思います。よろしくお願ひいたします。

※今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、  
nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp までご連絡ください。